

売上高6.5%増、最高

9月中間営業利益11億円

バローホールディングス(HD)が10日発表した2023年9月中間連結決算は、売上高に当たる営業収益が前年同期比6.5%増の3991億4000万円と過去最高を更新。営業利益は16.5%増の111億4200万円と大幅に増えた。物価高を受けた生活必需品の価格抑制などで、主力のスーパーマーケット(SM)やドラッグストア

(DS)の売り上げが伸びた。

SM事業は、野菜と魚の生鮮部門や生鮮食品を使った総菜が好調で、売上高は7.3%増。金額では151億2100万円増加し、全体を押し上げた。既存店の売上高も4.7%増と伸び、客単価も上がった。

DS事業は、新型コロナウイルスの5類移行やインフルエンザの流行などで、ヘルスケアやビューティー関連の需要が伸びた。生活必需品の価格を抑えるなどして来店を促し、売上高は6.6%増と伸びた。

ホームセンター事業は、プライベートブランド(PB)商品の開発などに取り組んだが、物価高の影響による消費者の節約志向で、売上高は0.1%減。既存店の売上高も1.5%減と苦戦した。

スポーツクラブ事業は、営業時間の拡大や会員種別の見直し、スイミングやテニスのスクール部門の強化で会員数が増加し、売上高は1.1%増。

損益面は、SM事業で商品売り切りの生鮮部門が伸びたことで利益率が上昇。DS事業で新自動発注システムの稼働など店舗業務の効率化で販管費が減り、利益を押し上げた。

4～9月のグループ店舗は新設19店舗、閉鎖14店舗で、9月末の総店舗数は1327店舗となった。

24年3月期は増収増益を見込んでいる。